

関西分校の証し

松田 三智子

神様の恵みと励まし、多くの教会の祈りと期待に支えられた関西分校の小さな学びは、主の豊かな臨在の中で素晴らしい祝福の時となっています。

一週に2日間、夜の6時から9時30分まで4教科の学びが開講されています。

火曜日の1時限目は「教会史」久保田寛師。主観的になり、間違った教理を生み出す結果で終わってしまった人間の弱さは、私たちにもあることを感じます。しかし、神様は時の人を用いて聖書に立ち帰らせて下さっている恵みも知りました。

2時限目「伝道学II」津村昭二郎師。主が与えられた使命である伝道を通して純粋に魂の救いを強く願われ、心が燃える授業です。

金曜日1時限目「教会概論」杉本俊輔師。先生の長年の牧会経験を通しての講義はとても楽しく、気付かされることがたくさんあり感謝です。牧師の助けとなり、信徒みんなに配慮し、主の栄光になることを思います。

2時限目「聖書地理」津村昭二郎師。イスラエル旅行の経験のある先生は、聖書の出来事などを通し、楽しい授業をされています。

関西分校の生徒は、社会人、主婦、学生と年齢も様々ですが、愛ある励ましと折り合う仲の良い友です。

講師の先生方は個性豊かな素晴らしい神様の器で、私達のために良いものを用意し、提供され、祈りと励ましによって支えて下さっています。

神様の栄光だけを願う方にとって関西分校の生活が有意義であることを確信します。新しい兄妹の仲間が増し加わることを願っています。

編集後記

◎ 主の憐れみによって、学校閉鎖にまでは至らずにすみましたが、佐布校長を始め教師一同、学生殆ど全員が次から次へと、風邪とインフルエンザでダウン。しかし、チャペルの時間となると、祈りと賛美の声は十分に天に響く霊に燃えたものでした。1月22日に慶応病院に入院された弓山初代校長は2月10日に手術を受けられましたが、18日無事退院されました。引き続きお祈り下さい。

◎ 中央聖書学校構内は緊張感が漂っています。学年末の考査・論文提出の期限が迫っていること共に、卒業予定者の最大の関心事である派遣先がやがて発表される筈だからです。真剣な祈り声が聞こえています。

◎ 3月16日の卒業式には5名の卒業者を送り出す予定です。母校での訓練が十分に生かされて、熟練した働き人になれますように祈ってあげて下さい。また、櫻薫る4月の入学式には10名の青年男女がCBC家族の中に加えられます。その中の3名は牧師の家庭からの献身者であることは嬉しい限りです。

◎ CBCニュースのフォーマットを思い切っただけで変えてみました。せっかく備えられたコンピューターのメリットが十分生かされなかったことが最大の理由です。校正また校正で無駄な時間と費用が費やされ、結局前号のようなまことに見苦しい誤字・脱字のある所産となってしまいました。編集者の責任です。お許し下さい。何かご意見があればお聞かせ下さい。

発行日： 1993年3月10日

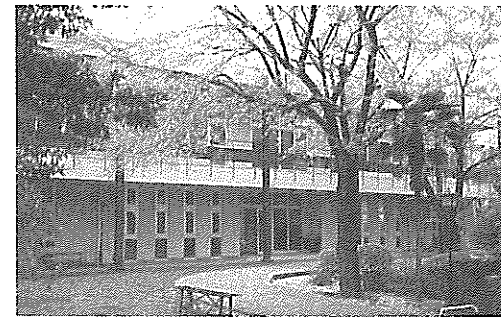
事務局： 〒170 電話03(3918)4925

東京都豊島区駒込3-15-20

中央聖書学校

編集者： 北野耕一

編集委員



CBC

ニュース

中央聖書学校

巻頭言

APTAと中央聖書学校

教団理事長

伊藤 顯榮



3年間の準備作業の結果、1990年9月にAPTA (アジア太平洋神学協会) が発足した。これはアジア太平洋地域にあるアッセンブリーの約60の聖書大学、聖書学校及び分校を含めると126に及ぶプログラムをサポートし、協力関係を作り、レベル向上に仕えようとするものである。

歴史的にみて、教職養成の機関はセミナリオ (セミナリー) と言われる神学校であった。しかし今世紀初めの聖霊傾注に伴うペンテコステ運動の広がりには伝道者の促成を要求した。また、既成の形骸化した教会に対し、聖霊に満たされた新しい教会を目ざす中でインテレクチャリズムにも反対し、3年制の聖書学校をもって足れりとした。ところが教会形成が始まり、牧会が始まると知識と訓練の不足が目につくようになった。合わせて社会全体が高学歴化してきた。

その結果、アメリカでは3年制の聖書学校が一斉に4年制に移行していった。教授内容も従来3年間かけて聖書各巻を学んでいたのが、最初の2年間は一般教養科目が中心となり、残りの2年間で重要な書巻と理論を学習し、他は自分で研究するというシステムに変わったのである。1950年の創設以来3年制であった中央聖書学校も長期にわたる検討と調整を踏まえた後、1978年4年制の聖書大学に学制変更を行っ

た。英語の名称はバイブル・カレッジ (CBC) となった。

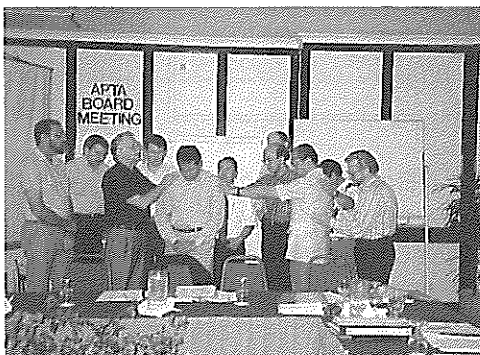
しかし、文部省認可大学ではないので聖書大学と呼称することも、学士号を授与することも不可能である。これは日本の教育界を文部省が一手に支配しているからである。アメリカなどでは、州の認可もあるが、それ以上に学校同志が連盟を作り、自分たちのレベルの向上と品質管理を行っている。このアクレディテーション (認定) の作業を行う機関は地方別、学校の種類、レベル別に存在し、また全国規模のものも存在している。これらの認定機関を認定する機関も存在している。従ってどの認定機関によって認定されるかが、その学校の格式と権威に関わってくる。

日本における教職者養成機関は一部の聖書大学の神学部を除けば、ほとんどが無認可であるが、いくつかの福音派の神学校が数年前からATA (アジア神学協会) の認定を受けている。中央聖書学校としてもアメリカの聖書大学と同レベルにあることを自負してきたが、ATAの基準には無理があり、たといそれに到達しても我々の目標とすることと必ずしも合致するものでないことが論じられてきた。

この問題はアジアのアッセンブリーの教育者会議で論じられ、APTA結成となったのであ

る。現在、小生は理事長として微力を尽くしているが、この働きには認定と教師の認定プログラムが含まれている。認定は今年9月の総会において承認され次第、実行に移されることになり、中央聖書学校もその作業を終了すればAPT A認定校として公に認められるようになる。特にこの認定はアッセンブリーの特徴を活かし、その目的と使命、またその置かれた国と地域のニーズに応えることを最大の条件として考慮することになっている。認定委員会には佐布師と北野師が牽仕している。

ご理解と協力、指示をお願いする次第である。



APT A理事会

中央聖書学校学生募集

主の御声を聞いている者よ、きたれ！

入学資格：受洗後2年以上を経た忠実な教会員であること

〒170 東京都豊島区駒込3-15-20
電話：03-3918-4925

* 入学案内は所属教会牧師にお申し出ください。

「アッセンブリー史」

弓山師を迎えての特別講義

(1992年9月22日)

専門 A 五島 靖子

アッセンブリー史の授業の中で、幸いにも私達は、弓山師をお迎えして特別講義をしていた。先生は貴重な秘蔵の記録を持って来られてページをめくりながら日本アッセンブリーズ・オブ・ゴット教団創立当時の事を、つい昨日の事のように生き生きと情熱を持って語って下さった。今、私達はあまりにも当然の事のようにアッセンブリーという教団に属し、その神学校ティティティで学んでいる。しかし、その背後にどれだけの地道な働きと、熱い祈りが積み重ねられてきたのかと思うと、目の前で語っておられるこの小柄な弓山師に対して、重本当に頭の下がる思いがした。

先生は語られた。聖霊に対して真の飢え渇きのある所に満たしがある、そして聖霊に満たされたら、じっとしていらなくなるはずだ、と。一人の伝道者によって、大きな業がなされる時代は過ぎ去った、すべて主の業、栄光はすべて主のものだ、と。一人一人が御霊に満たされる事を渴望し、御霊に導かれる事を願い、御霊が働かれる事を切望するなら、主は大いなる業をなさるのだ、と。そして、神は決して召した者を飢えさせる事はない、主御自身が私達の人生の責任をとって下さるのだから、と語って下さったその言葉は、先生の80年近くの信仰生活がにじみでた、ずっしりと重いものだった。

「霊の世界へ、身を沈めていく教団でありたい。」最後に先生は万感の思いを込めて、こう言われた。人ではなく、ただ主が、ただ主の御名だけがたたえられ、ただ主の臨在だけがそこにある。「権勢によらず、能力によらず、わたしの霊によるのである。」という御言葉のごとくに、全てを御霊に委ねていきたい、という先生の、今なお静かに輝き続ける思いを、私達はそこに垣間見た。

CBC 22名に聞きました

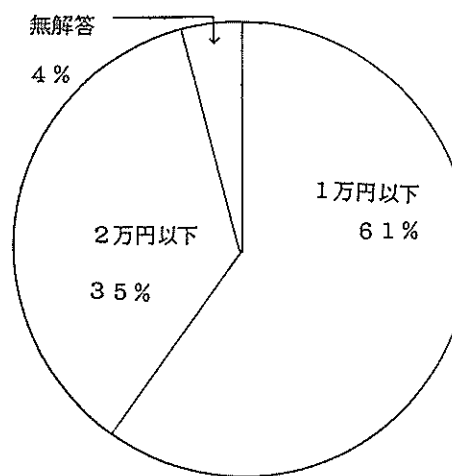
1、趣味はなんですか？

- 1) 映画 2) 音楽
3) スポーツ、絵画、読書

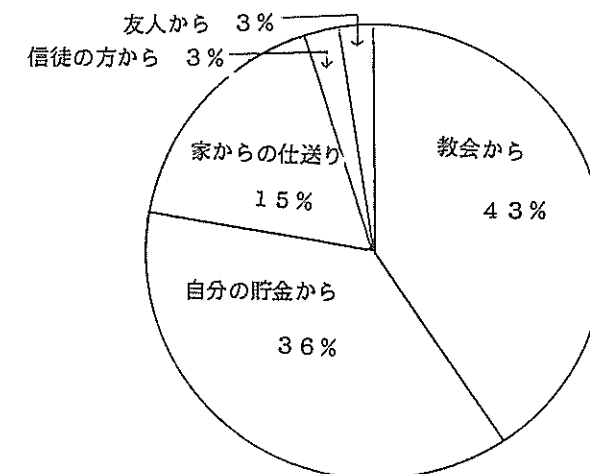
2、余暇に愛読する書籍の種類は？

- 1) 随筆 2) 論文集 3) 詩集

3、月平均の小遣いは？



4、小遣いの出所は？



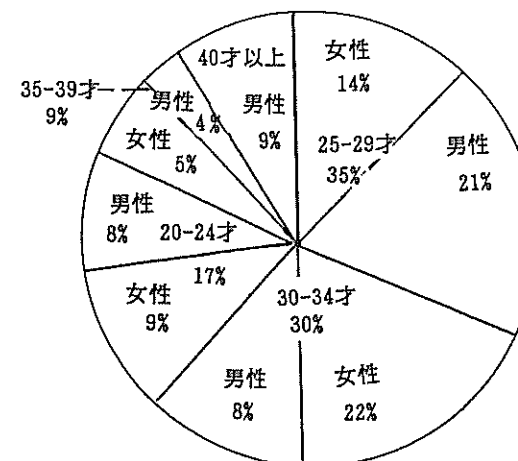
5、両親の救いは？

- 二人とも救われている 26%
片親だけ救われている 17%
救われていない 40%
不明 4%
無解答 13%

6、聖書学校入学に対する両親の態度

- 両親反対 22%
片親反対・他方無関心 4%
両親賛成 56%
不明 9%
無解答 9%

7、年齢



8、出身地（母教会のある地名）

- 北海道 8%
関東 17%
東海 4%
北陸 8%
関西 34%
中国 13%
四国 4%
九州 4%
台湾 4%

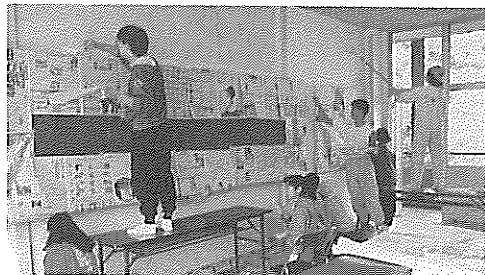
通学生の証し

基礎 B 青木 順也

私にとって通学とは、単なる学校と家庭の往復ではなく、市場とキッチンの往復のようなものである。良い素材を市場である学校で仕入れてきて、家庭または教会で料理する。もちろんその逆もある。

入学して一年が経とうとしているが、本当にいろいろな事があった。その一つが新家庭の土台作りである。理想やビジョンはもっていても、そう甘いものではなく、とにかく祈られた。信仰が試された。というのは、夫婦で共に祈るという事が、いや、共に祈る時間を作るという事が、とても難しかったからである。2人とも毎日朝早く家を出て、夜遅く帰ってくると疲れて折りどころではない。落ちついて聖書を読むところではなかったのだ。しかし、主は、私たちに祈らせて下さったのである。自分達の力で一生懸命祈ろうとすると、ものすごいエネルギーを使ったが、主が祈らせて下さる時(2人の問題、学校、教会での問題などで)不思議によく祈れるのである。そして、いつも喜びを共にすることができた。忙しい生活に追われて、授業やチャペルまた兄弟の交わりで得たものを実生活(家庭、来るべき教会形成)でおいしく料理して出せなければ何の意味もないと思う。現在、霊的自己形成の最も大事な味付けの決め手は、祈りしかないと考える。総料理長である主に委ねつつ、味のある伝道者になりたいものだ。

「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。」(ローマ8:28)



通学生の証し

基礎 B 竹田 和則

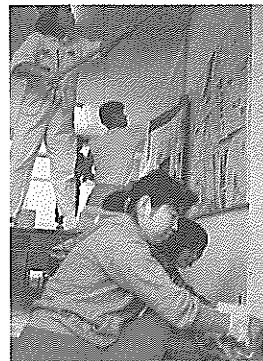
CBCに入学する上で私の問題の一つに「通学出来るのか。」ということがあげられました。私の住まいは横浜です。そして、妻と二人の子供がありますので、寮にはいるのは楽な反面、問題も多く出てきます。また通学した場合片道2時間弱の道のりを毎日通うことが出来るのか、と言うことでした。母教会の兄弟姉妹からは「もちろん、寮に入るんでしょう。」と心配そうに聞かれたりもしました。それは、入学前の私の体は到底往復4時間の通学は無理であったからです。と言うのは、約8年間の病との戦い、そして、癒されはしたもののこのブランクの体力を取り戻すにはたいへん困難であったからです。入学時一つのことを思いCBCの門をくぐりました。「もし、このことが本当に神様の御心ならば、このことを可能にして下さる。そうでなければ、・・・。」

入学し早一年になろうとしています。今はただ神様に感謝するのみです。神様は通学できるからだのみではなく、朝の祈りをする体力をも導いて下さっていることを、またこの「通学」によって神様への信仰をも学ばされ、感謝いたします。

「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」

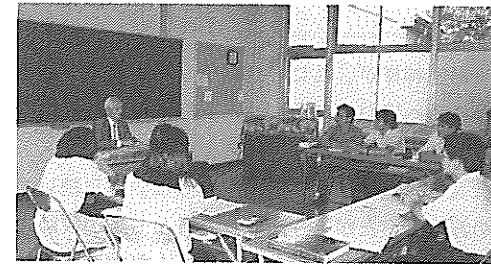
(ヘブル11:1)

神様の御手はなんとすばらしいか、今、まざまざと見せられています。



作業日 教室壁塗り

弓山師による4時間近くの講義の後、私達は心燃やされて献身の決意を新たにしました。先生が常に抱き続けてこられた救霊への情熱、主への期待、リバイバルへの熱い熱い夢と幻を、私達も受け継いでいきたい、と切に願う。御霊がこの日本に豊かに降り注いで、素晴らしい業が、かつて私達が想像もしなかったような素晴らしい業がなされる事を信じて。



弓山師による「アッセンブリー史」

(特別講義で4時間)

冬期派遣の証し

専門 B 神谷 恵美

荷造りも終わり、出かけようとしていた日の朝、夏に引き続いて派遣先が変わりました。今回は和歌山に近い大阪岬公園の側で伝道されているウェルチ先生と1ヶ月余り過ごすことになりました。8回目の派遣ですが始めて先生のご家庭の中に加えられて生活しました。愛し合い、何でも話し合い、賜物を認め合う先生ご夫妻です。一人で生きている私にとって、伴侶に仕えられる姿は大変な学びでありました。素晴らしい賜物を持つ先生ですが、外国人の珍しい地で存在そのものを用いて伝道されています。現在の伝道が軌道に乗るとそれにとまらず他の場所にも伝道の拠点を、と絶えず目を外に向けられておられる姿勢は、私の考えていたとおりでした。私は、日本人らしさと、先生方の大陸的でおおらかさを持たらいいな、と思いました。派遣前にはいつも希望を出しましたが、最後まで希望するところに派遣されたことはありませんでした。しかし、振り返ってみていつも

よい学びを得ていたことを思い、今回も御心のままにと委ねておりました。ギリギリの所で変更になりましたが動揺もなく従えたことは、この4年間の集大成であり大変感謝なことだと思います。献身を決意した時「これが出来るから使ってください」と神様に差し出すものは一つもありませんでした。ただわが身ひとつで従いました。目前に卒業を控え、結局私の手に誇るものは一つありませんが、イエス様と共に今私に求められる方向に向かって、どこへでも従って行きたいと思っています。

冬期派遣の証し

専門 B 中江 美早子

神様の恵によって、神学校生活最後となるであろう冬期派遣を、土佐清水キリスト教会で奉仕させて頂きました。四国最南端の足摺岬に近い漁村、「海の神」という土着宗教が根強いこと、古い因習や、イエ・ム意識が深く浸透していること、さらに人口流出による過疎化と言う様々な文化の中で、福音宣教の業が進められ、結実しているのを見、実践的働きを通して体験させて頂きました。また教会形成における教会管理についても教えられました。管理社会の中で、画一化没個性かすることなく、御霊が自由に働かれるキリストの体を建て上げていくことについても学ばさせて頂きました。

そして、卒業を目前に控えた私自身、牧師、伝道者としての資質について再度考えさせられ、自分を見つめ直し、御言葉に照らしながら、自己確認する時となりました。異文化、世俗的価値観の横行する中で、キリスト者が如何に聖書的世界観に行き、この世と調和しつつ、神様から与えられた宣教命令と文化命令に服従することを考えさせられました。自らの弱さ、愚かさを覚えながらも、神様に依存し、信頼し、救霊の業に参与できることを幸いだと感じました。と同時にいつも目をさまして、御霊の導きを確認し、それに従っていかなければならないと痛感しました。短期派遣ではありましたが、私に

必要な濃縮された最高の学びと奉仕の時であったと、神様に心から感謝いたします。

冬期派遣の証し

専門 B 中川 慎一郎

神学校生活最後の派遣は、希望ヶ丘教会でした。私にとっては初めての母教会派遣でしたが、期待よりも不安の方が多かったと思います。慣れ親しんだ教会で、信徒の一人として、大いに牧師を困らせていた(!) 時からの懐かしい方々・・・全く初めて顔を合わせる方々・・・いろいろな方とお会いすることが出来て嬉しかったのですが、母教会ということも手伝ってすぐに緊張感が解けてしまい、失言してしまうという失敗も数多く経験した派遣でした。神の言葉を語る者にはどれだけ多くの責任が負わされて行くのか知ると、「今更ながら、道の選択を誤ったかな」とさえ感じることもしばしばでした。

できれば分厚い神学書など開かないで済ませたいと思っていた私も、4年生になると「このままではいけない」と思いできるだけ勉強もするようになったのですが、まだまだ全く足りないと痛感させられました。象牙の塔の中で生活している内に、自分に常識の欠けたところが出始めていることもはっきり教えられました。

「何かがきつとできる自分」ではなくて「全く何もできない自分」を見つめ直し、そこから神様が何をさせようとしておられるのかを探り、耳を傾けることを示された貴重な派遣でした。教会が祈って送り出した初めての献身者ということで今までの教会とは違う暖かさ、厳しさ、



クリスマス祝会 スペシャル賛美

期待を肌で感じました。「片方の耳は神様に向け、片方の耳は人に向け、いつでも人の意見を聞ける者となりなさい。」と指導された先生の言葉を忘れずに、自分を見つめつつ、小さな一歩を踏み出していきます。

冬期派遣の証し

専門 B 縣 ともみ

毎回神様が、私に必要な学びをさせて下さるところへ遣わして下さった長期派遣。最後の学びとなる冬期派遣は、母教会の東浅川キリスト教会で、ご奉仕させて頂きました。夏に続いたの派遣でしたが、今回は牧会者としての牧師先生ご夫妻を見せて頂きました。人が教会に入りやすくするためには、どのような心配りをしたら良いのか、心地よく教会にいられるために、どんな気遣いをしたら良いのか・・・そういった、細かいけれども大切な「知恵」と牧師の「心」を、牧師先生ご夫妻の言葉と行いの中で教えられました。母教会だからこそ見えた部分、教えられたところがあったと思います。あとわずか、実際に魂に接し、羊を牧していく者として実践の場にていく私にとって、非常によい学びの場となりました。

もう一つ感謝だったのは、今回、家に帰り、両親に証しが出来たことでした。両親は未信者なので、私が献身をするときも、ほとんどあきらめる形で送り出してくれました。両親の救いのためには祈っていましたが、自分が信じている神、また自分がこれから歩む道を、面と向かってきちんと話せずにいました。でも今回、家に帰ったということで、自然な形で証しをする事が出来ました。両親の心はだいぶん開かれて、「がんばりなさい。」と言ってくれました。母は時折、教会に行くようにもなりました。神様が確かに私の両親に働いて下さっているのを見て、本当に感謝しました。残されたわずかの神学校生活、また卒業後の新しい歩みにおいても、いつも神様を証ししていく者になりたいと、願っています。覚えてお祈り下さい。

冬期派遣の証し

専門 B 山口 真由美

主の御名を賛美します。

学生最後の派遣は、去年から開拓が始まった長野県茅野市の諏訪キリスト伝道所でした。八ヶ岳、蓼科などの美しい山々、秋には収穫が多かったであろう田畑に囲まれたこの伝道所は、去年卒業された婦人の先生が、がんばっておられます。私は、1年ぶりに先生とお会いする懐かしさと、生まれて初めて行く信州に胸をわくわくさせていました。そして期待以上にこの町は自然の美しさを私に見せてくれました。神様が造るものは、なんと美しいのかと賛美せずにはおられません。しかしその反面、この地方の人々は、因習が強く根強い土着宗教の故にキリスト教は自分には関係の無い宗教だと考えているようです。都会とは違った伝道の困難さを覚えます。

私は、この地にきて日本に住んでいながら、本当に日本を知っていなかったのではないかと考え、自分の視野の狭さ、世界観の小ささに気づかされました。神様の造られた美しい自然の中におりながら、真の神を知らず、偶像を拝む人々が多くいるということを、実際にさせてもらったようです。『これが日本だ。』と実感したとき、改めて日本に対する愛と重荷を強く持ち、献身を決意した時の初めの愛に立ち返られました。卒業を目前とした私に神様はもう一度原点に返って、伝道の基本である「愛する」ことを悟らせて下さいました。

「自分のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である。」(1コリント13:3)

お世話になった山本先生、兄姉に心から感謝します。

わたしはあなたとともにいる。これがあなたのためのしるしである。出エジプト3:12

通学生の証し

専門 A 原 かおる

おととしの夏になりますが、体調をくずしてしまいました。そのため、その年の10月から昨年の3月まで休学させていただくことになりました。幸い、自宅が東京にありますので、休学後、先ず始めに昨年の4月から10月まで週に3日間だけ、体調を整えさせていただきながらの通学が始まりました。後期の始まる10月からは復学させていただくことがゆるされ、現在に至っています。今は、食事療法などしながら体調を整えさせつつ通学を続けています。おととしの夏、体調をくずしてから序々に回復し、今日まで支えられてきました。自宅からの通学が許されましたので、両親と共に過ごすときが与えられ、まだ救いを受けていない両親に証しする機会が与えられたことは感謝です。また、夜寝る前には、私の回復のためにと神様を求め始めた両親と共に、神様の前に毎日祈るときが与えられています。体調をくずし、半年間の休学にもなりましたが、そのことを通しても、神様は恵へと変えて下さっていることを覚えます。多くの方々の祈りに支えられましてここまですることが出来たことを心より感謝しています。これからどうなっていくかわかりませんが、ただ主の御手に全てをお委ねして進んでいきたいと思っています。

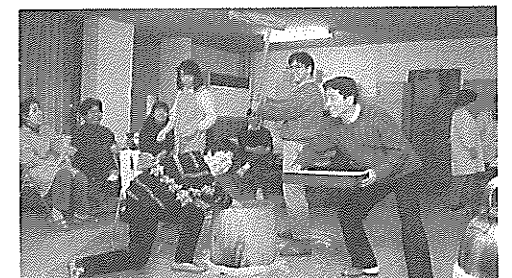
「わがたましいよ。

主をほめたたえよ。

主の良くして下さいましたことを

何一つ忘れるな。」

(詩篇103:2)



新年会 「もちつき」